

平成22年度事務事業評価シート(平成21年度分)

予算科目	会計	一般会計	001	款	03	項	01	目	06
事務事業名	介護予防事業(まめまめ健口訪問)								
担当部署	健康福祉部地域包括支援センター中央	402316	電話	0187-63-1111			内線		

◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	01:安心して健やかに暮らせるまちづくり
	施策の大綱	04:高齢者福祉の充実
	施策	02:介護保険事業の充実
	施策の内容	01:地域支援事業・新予防給付の実施
根拠法令等	介護保険法、地域支援事業実施要綱	

◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	加齢とともに、徐々に低下する口腔機能を維持、改善、向上させ、要介護状態に陥らないように支援していく。
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	生活機能評価事業において、口腔機能低下のおそれがあり、通所型介護予防事業に参加できない特定高齢者とする。
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	在宅歯科衛生士による月2回3か月間の定期的訪問指導を行う。 指導内容: ①口腔機能向上の必要性について ②口腔清掃の自立支援 ③摂食・嚥下機能訓練指導 等 を個別介護予防プランに基づいてサービス計画書を作成し、日常生活におけるセルフケアとして継続して実践できるように支援していく。
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	①「おいしく食べて、楽しく話し、よく笑う」など口腔機能の向上により生活の質が高まる。 ② 要支援、要介護状態の予防により、医療費や介護予防給付費が抑制される。

◆実施Do

項目	名称	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
活動結果 (事業の活動量を測る)	訪問回数	回			28	
	訪問人数	人			15	
成果 (事業の成果を測る)	機能の維持・改善	人			14	
投入コスト	決算額				275千円	
		一般財源			0千円	
	人件費					885千円
		一般職員の年間従事人数				0.1人
		一般職員以外の年間従事人数				0.1人
総コスト	(決算額+人件費)		0千円	0千円	1,160千円	

事業を取り巻く環境	口腔機能の低下は食事の意欲が失せて低栄養になりやすく、誤嚥性肺炎などの病気や事故をひきおこす原因となる。特定高齢者の中で、6割以上に口腔機能の低下がみられるが、住民の口腔機能についての意識は低く、訪問は個人の状態に合わせてプログラムを実施することができる。
-----------	--

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	A
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となつてこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 事業の目的を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	口腔機能の低下により唾液の量が減り、口腔内の細菌が増えやすくまた食事にむせたり食べ物がつかえたりして、誤嚥性肺炎を起こしたり事故につながることもある。個別訪問でその人にあつたきめ細かな口腔ケアの指導により、口腔機能が改善されるとともに嚥むことにより脳を刺激して認知症予防にもつながるので、通所型に参加できない特定高齢者への支援として必要である。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	A
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	A
	評価の理由	個別予防プランに基づいた指導により、参加者の口腔ケアの意識も高まり、事後評価でもほとんどの参加者が維持改善されている。	
効率性	①【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	A
	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	B
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	B
	評価の理由	個別訪問指導は有効性はあるが、限られた人数の指導になってしまう為、もっと多くの特定高齢者が参加していけるように検討していく。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)	
改善	A 現状のまま継続	①22年度から通所型介護予防事業に運動器の機能向上と口腔機能向上の混合型の地域を多くし実施していく。 ②口腔機能について興味が薄く、事業に参加できない特定高齢者や一般高齢者を対象とした地域での健康教室等で、口腔機能の改善、向上の啓蒙していく必要がある。
	B 改善しながら継続	
	C 拡大	
	D 縮小	
	E 廃止	